

開講科目名	都市空間計画		
担当教員	三輪 康一	開講区分	単位数
		前期	2単位

### 授業のテーマと目標

都市空間とそれを構成する諸要素とその形成システムについて、調査・分析論から手法論(計画・設計論)さらに実践論(評価論)にいたる計画研究の体系化を通じて講述する。

### 授業の概要と計画

1. 都市空間調査・分析論
2. 都市空間計画・設計論
3. 都市空間評価論

### 成績評価方法と基準

レポートによる。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

特になし。

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーの日時は授業開始時に通知する。

### 学生へのメッセージ

### テキスト

テーマに即してその都度提示する。

### 参考書・参考資料等

テーマに即してその都度提示する。

開講科目名	空間システム設計論		
担当教員	未定	開講区分	単位数
		前期	2単位

### 授業のテーマと目標

空間を構成する構造物の計画に関して、構造安定性、環境調和性、社会的合意等を考慮した設計・評価方法を、システム論的観点から論じる。

### 授業の概要と計画

### 成績評価方法と基準

レポートの内容で評価し、60点以上を合格とする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

### オフィスアワー・連絡先

授業開始時に通知する。

### 学生へのメッセージ

### テキスト

### 参考書・参考資料等

開講科目名	構造物破壊論		
担当教員	大谷 恭弘	開講区分	単位数
		前期	2単位

### 授業のテーマと目標

構造素材の変形や破壊に関する理論を基礎とし、素材が組み合わされて成立する構造部材及び部材から構成される構造体の変形や破壊過程、ならびにそれらに基づいて構造物の安全性、耐久性、持続性等を考慮した破壊制御を論ずる。

### 授業の概要と計画

配付資料を元に講義形式で行うとともに、適宜、課題レポートを課す。

- (1) 建設構造物の破壊過程と材料の非線形挙動
- (2) 材料の降伏・塑性型現象と数学的記述法
- (3) 材料の亀裂発生型破壊現象の数学的記述法

### 成績評価方法と基準

課題レポートの内容と口頭試問により評価する。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

履修に当たっては、材料や構造物の力学挙動やそれらに関する解析法についての素養が多少求められます。

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーの日時は、授業で通知します。

### 学生へのメッセージ

構造物の挙動解析用汎用型ソフトのブラックボックスユーザーにならないよう、解析結果の評価や判断ができる能力を身につけてください。

### テキスト

資料配布

### 参考書・参考資料等

開講科目名	建築文化環境論		
担当教員	黒田 龍二	開講区分	単位数
		前期	2単位

### 授業のテーマと目標

日本の建築、都市、集落は長い歴史的時間の流れの中で独自の発展を遂げてきた。それらを学問的な認識の俎上に載せることは、これからの社会の形成にとって重要なことである。  
この講義では、建築物が生成する重要な環境であるところの社会文化環境を中心として、社会的、歴史的、文化的文脈から建築物の形態、様式をどのように読み取るのかを講義する。

### 授業の概要と計画

- 第1回 文化財としての建築物
- 第2回 文化財を規定する論理
- 第3回 建築史的意義の具体例 1
- 第4回 建築史的意義の具体例 2
- 第5回 歴史的意義の具体例 1
- 第6回 歴史的意義の具体例 2
- 第7回 文化史的意義の具体例 1
- 第8回 文化史的意義の具体例 2
- 第9回 社会的意義の具体例 1
- 第10回 社会的意義の具体例 2
- 第11回 学生の事例研究とその評価 1
- 第12回 学生の事例研究とその評価 2
- 第13回 学生の事例研究とその評価 3
- 第14回 全体的討議、質問

### 成績評価方法と基準

- レポートによる評価
- C評価 基礎的事実が収集されている。
  - B評価 基礎的事実に立脚して論理的、実証的に書かれている。
  - A評価 基礎的事実に立脚して論理的、実証的に記述が行われ、妥当な意見、評価、方策などが提示されている。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

学部講義の日本建築史、および日本歴史に関する基礎的知識をもっていることを前提とする。

### オフィスアワー・連絡先

講義日随時。研究室。

### 学生へのメッセージ

重要文化財建造物、重要伝統的建造物群保存地区をできるだけ多数見学してほしい。  
日本歴史、日本建築、および日本美術など我が国の文化に関する素養は、国際人としての基本的素養であるから、あらゆる機会に素養を深める努力をしてほしい。そのうえで、自分の生まれ育った地域、現に居住している地域の文化を見つめてほしい。

### テキスト

特に指定しない。

### 参考書・参考資料等

講義時に指示する。

開講科目名	住環境形成システム論		
担当教員	塩崎 賢明	開講区分	単位数
		前期	2単位
<b>授業のテーマと目標</b> 住宅や住環境を構成している物的要素とそれを構築し、運営していくための社会システムについて解説し、より良好な住環境を形成していくためのシステムについて具体事例を扱いながら講述する。			
<b>授業の概要と計画</b> 			
<b>成績評価方法と基準</b> 			
<b>履修上の注意(関連科目情報等を含む)</b> 			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 			
<b>学生へのメッセージ</b> 			
<b>テキスト</b> 			
<b>参考書・参考資料等</b> 			

開講科目名	防災マネジメント		
担当教員	大西 一嘉	開講区分	単位数
		前期	2単位
<b>授業のテーマと目標</b> 防災科学とは、「知る」「見つける」という発見の科学と、「構想する」「造る」という創造の科学の共同作業の成果であるべきと考えられ、自然、生物、社会といった結びつきの中で環境と地域の安全の問題に取り組む必要がある。災害発生後の現実の課題認識を共有化し、あるべき理想像の具現化へ向けて取り組む上で、全体を如何に管理し、災害後の日常の中にプログラムするかについて防災科学の立場から講述する。			
<b>授業の概要と計画</b> 			
<b>成績評価方法と基準</b> 			
<b>履修上の注意(関連科目情報等を含む)</b> 			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 			
<b>学生へのメッセージ</b> 			
<b>テキスト</b> 			
<b>参考書・参考資料等</b> 			

開講科目名	空間構造設計論		
担当教員	田中 剛	開講区分	単位数
		前期	2単位

### 授業のテーマと目標

建築耐震設計の観点から、建築構造物を設計する場合に必要な材料、部材及び接合部の設計手法を講述すると共に、既存建築構造物の耐震診断及び耐震補強についても述べる。

### 授業の概要と計画

本講義では、以下の内容について講述する。

1. 建築鋼構造に用いられる鋼材の性質
2. 建築鋼構造部材に対する要求性能と保有性能
3. 建築鋼構造接合部に対する要求性能と保有性能
4. 鋼構造部材による既存建築物の耐震補強

### 成績評価方法と基準

成績は、レポートの内容で評価し、評価が60点以上となったものを合格とする。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

建築鋼構造骨組の設計体系については、理解しているものとして講義を行う。

### オフィスアワー・連絡先

講義開始時に連絡します。

### 学生へのメッセージ

建築鋼構造建物の構造設計に関する最新の資料を提供するように努めます。

### テキスト

### 参考書・参考資料等

開講科目名	耐震構造解析学		
担当教員	未定	開講区分	単位数
		前期	2単位

#### 授業のテーマと目標

重層建築構造物、3次元骨組構造物および連続体構造物の地震応答解析を講述し、これら構造物の応答制御および防振に関する議論を行う。

#### 授業の概要と計画

耐震構造解析のトピックについて、最新の文献購読とディスカッションを行い講義を進める。

#### 成績評価方法と基準

レポートで評価する。

#### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

授業開始時に通知します。(以下同じ)

#### オフィスアワー・連絡先

#### 学生へのメッセージ

#### テキスト

#### 参考書・参考資料等



開講科目名	空間システム機能論		
担当教員	谷 明勲	開講区分	単位数
		前期	2単位

### 授業のテーマと目標

本講義では、実際の空間が有する種々の機能の分析・同定・制御手法に関して、知的システムや創発的システムを用いたモデル化、システム化手法について論じる。

### 授業の概要と計画

本講義では、知的システムや創発的システムを用いた空間システムの機能の分析、同定、制御手法に関して、下記の内容の中からいくつかのテーマを選定して講義を行う。

1. 評価手法：主観的評価手法，感性評価手法
2. 同定手法：動的システム同定，損傷同定
3. 制御手法：予測制御，適応制御，最適制御

### 成績評価方法と基準

レポート課題により評価する。評価：優(80-100点)，良(70-79点)，可(60-69点)，不可(59点以下)。

### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

### オフィスアワー・連絡先

オフィスアワーは講義開始時に通知する。

### 学生へのメッセージ

### テキスト

特に指定せず，適宜，資料を配付する。

### 参考書・参考資料等

講義中に参考図書を紹介する。

開講科目名	空間音響学		
担当教員	森本 政之	開講区分	単位数
		前期	2単位

#### 授業のテーマと目標

音環境制御にとって重要な聴覚事象の空間的性質について、その知覚メカニズムや物理的手がかりを詳細に述べる。これらをもとに、人の聴空間を物理空間から心理空間まで一つの伝送系として捉え、快適な音環境を実現するための計画手法について論述する。

#### 授業の概要と計画

テキストを輪読し適宜解説を加えながら内容について理解を深める。

#### 成績評価方法と基準

期末のレポートおよび輪読の成績を合わせて評価する。

#### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

特になし

#### オフィスアワー・連絡先

随時可。事前にメールでアポイントをとること

#### 学生へのメッセージ

特になし

#### テキスト

"Spatial Hearing" J.Blauert, S.Hirzel Verlag

#### 参考書・参考資料等

特になし

開講科目名	騒音制御		
担当教員	阪上 公博	開講区分	単位数
		前期	2単位

#### 授業のテーマと目標

騒音を制御し、静穏で快適な音環境を実現するために必要な、より高度な音響学の応用について講述する。具体的には、各種騒音源の音響的性質とその放射音の制御、伝搬経路における騒音制御の考え方に重点を置く。

#### 授業の概要と計画

騒音制御のいくつかのトピックを選び最新の文献購読とディスカッションを行なう。

#### 成績評価方法と基準

授業内容に関する課題を与え、達成度によって評価する。

#### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

#### オフィスアワー・連絡先

授業開始時に通知する。

#### 学生へのメッセージ

#### テキスト

#### 参考書・参考資料等

開講科目名	減災空間設計法		
担当教員	未定	開講区分	単位数
		前期	2単位
<b>授業のテーマと目標</b> 大災害時の被害を軽減するための都市計画的及び建築計画的手法を、予防計画、応急計画、復旧計画、復興計画のそれぞれに分けて、事例解析を含め講義する。			
<b>授業の概要と計画</b> 			
<b>成績評価方法と基準</b> 			
<b>履修上の注意(関連科目情報等を含む)</b> 			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 			
<b>学生へのメッセージ</b> 			
<b>テキスト</b> 			
<b>参考書・参考資料等</b> 			

開講科目名	救急避難システム論		
担当教員	久保田 勝明	開講区分	単位数
		前期	2単位
<b>授業のテーマと目標</b> 消防機関が行う救急業務の概要や、海外の救急事情、増加する救急要請に対応するための効率的な救急隊の配置運用方法などについて講述する。			
<b>授業の概要と計画</b> 			
<b>成績評価方法と基準</b> 			
<b>履修上の注意(関連科目情報等を含む)</b> 			
<b>オフィスアワー・連絡先</b> 			
<b>学生へのメッセージ</b> 			
<b>テキスト</b> 			
<b>参考書・参考資料等</b> 			

開講科目名	都市熱環境工学		
担当教員	竹林 英樹	開講区分	単位数
		前期	2単位

#### 授業のテーマと目標

外部空間の気流分布，放射熱伝達，熱・水収支などの熱環境に関連する現象を，工学的に解析，評価する方法について，理解，修得することをテーマとする．

#### 授業の概要と計画

都市熱環境の解析方法，評価方法の枠組みを説明し，最新の研究成果，社会的な課題と動向などを紹介する．

#### 成績評価方法と基準

講義に関連したテーマのレポート又は発表により評価する．

#### 履修上の注意(関連科目情報等を含む)

履修者は積極的に教員とコンタクトを取って下さい．

#### オフィスアワー・連絡先

授業時間時等に通知する．

#### 学生へのメッセージ

遠慮なく質問すること．

#### テキスト

適宜資料を配布する．

#### 参考書・参考資料等

必要に応じて適宜提示する．